

日本電子計算株式会社様

金融機関向けパッケージ「資金証券システム」と「統合リテールバンキングマネージメントシステム」にNexawebを採用

2007年リリース予定の金融機関向け業務パッケージの両製品をリッチクライアント化
JavaとNexaweb開発フレームワークの採用により、設計・開発作業の効率化を実現し、短期開発のニーズに対応

導入背景と課題

- ・日常業務で利用するWebユーザーインターフェイス向上
- ・インフラ基盤として共通利用できるリッチクライアントを選択

日本電子計算株式会社(以下、JIP)では2009年1月から施行される株券不発行制度に向けて、次世代証券決済に対応するシステム開発プロジェクト「RENOVA」を展開しています。これまで同プロジェクトでは、2003年4月に「電子CP(コマーシャルペーパー)システム」、2006年1月に「一般債システム」がリリースされており、それぞれ金融機関におけるデファクトスタンダードシステムとして高い評価を得ています。これらに続くRENOVAの主力パッケージとして、現在JIPが急ピッチで開発を進めているのが「資金証券システム」です。

JIPでは以前より、主に資金証券業務のバックオフィス機能として、先物取引総合管理や債券現先取引、債券貸借取引などのアウトソーシングサービスをメインフレームで提供していました。営業統括本部 東京本店 金融営業部部長の大江康裕氏は、新しい資金証券システムの位置付けについて、次のように説明します。

「今回の資金証券システムは、単にホスト系からオープン系へのリニューアルということではありません。従来のサービスで提供していたバックオフィス機能に加え、取引支援やリスク管理などの機能も統合して、フロントからバックまで一気通貫でサービスをご提供できる統合パッケージとすることが目的です」

JIPが資金証券システムの開発について本格的に検討を開始したのは、2006年1月頃のこと。当時、従来のホストシステムで提供していたサービスでは、画面インターフェイスやメンテナンス性について、ユーザーからの声も挙がっていたといえます。

「資金証券システムの開発にあたっては、ユーザーオペレーションの容易さや使いやすさ、メンテナンス性の向上が重要なテーマとなりました。そこでこれらの課題するために、利便性が高く柔軟なユーザーインターフェイスが

実現できるリッチクライアントの採用を最初に決定しました」(大江氏)

一方、資金証券システムとほぼ同時期に、JIPではそれまで個別に展開していた個人融資審査業務向けの各システムを統合し、「統合リテールバンキングマネージメント(以下、総合RB)」としてリニューアルするプロジェクトが始動。この総合RBの開発においてもユーザーインターフェイスが重視されていたことから、資金証券システム同様にリッチクライアントを採用することになりました。

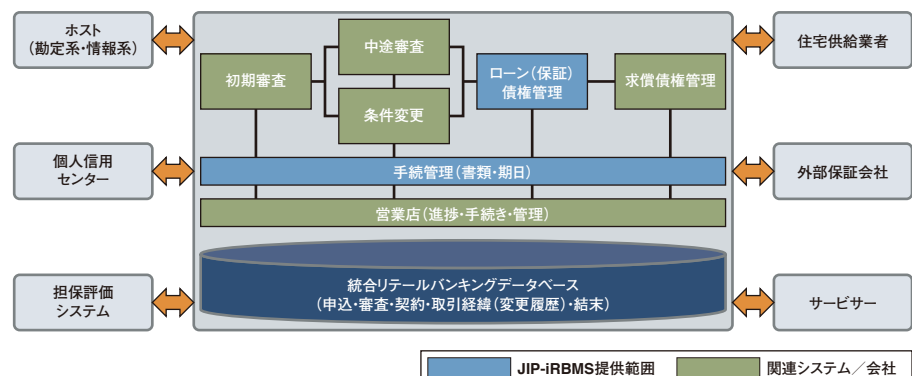
この時点で、資金証券システムは2007年3月(2006年度内)、総合RBは2007年6月(2007年度第一四半期)のリリース予定とされ、ともに短期開発が必須条件となっていました。

資金証券システムおよび総合RBへのリッチクライアント機能実装に向けて、JIPではリッチクライアント製品の比較検討を開始。Nexawebのほかには、同社の他のソリューションで採用実績のあったBiz/BrowserやAdobe Flex、標準技術のAjaxなどが候補に上りました。これらの中から、両システムで求められる要件を満たす製品として選択されたのが、Nexawebです。

採用の理由

- ・ゼロインストール、サーバプッシュ機能、汎用性の高いJava
- ・そして採用の決め手は、Nexawebベースの開発フレームワーク

前提条件であるユーザーインターフェイス向上のための操作性や表現力に加え、JIPがNexawebを選んだ理由の1つには、Java VMが動作する環境であればクライアント側にソフトやプラグインをインストールする必要がないため、基本的なリスク管理の面で有効であることが挙げられます。また、いずれもサーバ側の統合データベースのデータ変更をリアルタイムで反映してクライアントに配信することが要求されるシステムであることから、サーバプッシュ機能も必須でした。クライアント側とサーバ側の両方をJavaで開発できることも、開発効率や金融システムとしての信頼性の面で重要なポイントとなりました。



企業プロフィール

日本電子計算株式会社

本社所在地:
東京都中央区日本橋茅場町一丁目8番1号
代表者:代表取締役社長 内池正名
資本金:24億6千万円
従業員数:1,206名(平成18年4月1日現在)
設立年月日 昭和37年12月3日
URL <http://www.jip.co.jp/>

事業内容

- ◆金融・証券ソリューション
証券会社向けオープンシステムをはじめ、電子証券化をテーマとした証券決済制度対応サービス、個人融資業務の統合システムなど幅広いサービスを提供しています。
- ◆自治体向けソリューション
地方公共団体のICTを活用した業務改革をサポートするために、住民情報パッケージを中心に豊富なシステムラインナップを提供しています。
- ◆企業・文教ソリューション
先端技術と長年の業務ノウハウを基に、一般企業・大学向けにシステムの企画立案から開発、運用、保守までの一環したサービスを提供しています。

システム開発会社プロフィール

株式会社日本総研ソリューションズ
本社所在地:東京都港区港南2-18-1
代表者:執行役員社長 中村博行
資本金:41億9千万円
従業員数:4,936名(平成18年3月31日現在)
設立年月日 昭和54年9月21日
URL <http://www.hitachi-system.co.jp/>

開発フレームワーク

◆Extended Struts for Nexaweb
Nexawebを使用した業務アプリケーション開発を効率化するStrutsベースのフレームワーク。開発実績に基づき、わかりやすい開発手順書、豊富なサンプルコーディング、各種ユーティリティを提供。業務開発を容易に、効率的に、スピードアップ。



資金証券システムの画面例

そして、Nexaweb採用の最大の決め手となったのが、開発支援パートナーである株式会社日立システムアンドサービス(以下、日立システム)および同社が提供するフレームワーク「Extended Struts for Nexaweb」の存在です。Extended Struts for Nexawebは、日立システムが大手金融機関の複数プロジェクトの開発実績と経験をベースに、アプリケーション開発に必要な機能をコンポーネント化したNexaweb用の開発フレームワークであり、50種類以上のサンプルアプリケーションや開発手順書も添付されています。このフレームワークを利用することで、Nexawebによるリッチクライアントアプリケーションを、短期間で簡単に開発することが可能となります。

サービス統括本部 開発本部 金融開発部 アーキテクトマネージャーの森永善宏氏は、当時を振り返って次のように語ります。

「Nexawebに関して先駆者として取り組まれてきた日立システムの豊富な実績やノウハウと、それに基づいた開発フレームワークは、非常に期待できるものでした。我々も自社でフレームワークを持っていましたので、それをAjaxでカスタマイズしてリッチ化するという選択肢もありましたが、やはり短期開発を実現する上では立ち上げに時間がかかるのは避けるべきという判断もあり、最終的には日立システムに依頼し、NexawebプラスExtended Struts for Nexawebの採用に至りました」

JIPでは、日立システムの最初の提案を受けてから1カ月弱でNexawebの採用を決定。2006年2月より、本格的な開発をスタートしました。

導入効果

- ・ASP型とパッケージ導入(インストール)型の二重開発を撤廃
- ・ブラウザに依存しないJavaならではの高性能にも期待

両システムの短期開発に対応すべく、JIPではオフショア開発を採用。ピーク時には月あたり160名が参画する同社でも最大規模の開発プロジェクトとなりました。現段階では資金証券システムも統合RBも本番環境

実装前であり、本格的な導入効果が得られるのはこれからとなりますが、これまでの開発期間における効果について、サービス統括本部 開発本部 金融開発部 資金証券プロジェクト プロジェクトマネージャーの倉橋和樹氏は次のように評価しています。

「クライアント側でもJavaを組めるのは、やはり開発者にとっては大きなメリットとなっています。独自のベンダー依存言語などを習得する必要がないため、非常に効率的。Eclipseベースの開発環境も使いやすく、複雑な画面遷移もビジュアル・エディタで簡単に設計できます。画面の操作性や表現力についても、非常に満足度は高いですね」

日立システムのExtended Struts for Nexawebも期待どおりの効果を発揮しており、開発生産性の向上に大きく貢献していると森永氏はいいます。

なお、資金証券システムはユーザーのニーズに合わせて、ASP型とパッケージ導入(インストール)型の2種類の形態で提供されることとなりますが、これらを別々に開発する必要はありませんでした。Nexawebでは同一のアプリケーションを異なる環境で稼働させることが可能であり、これも今回のスピード開発を支えた一要素といえるでしょう。

今後の展望

- ・次期リリースに向けてさらに開発スピードを向上
- ・資金証券システム・統合RBともに需要拡大中

短期開発の成功によって、JIPの資金証券システムおよび統合RBは、無事に予定どおりのリリースを迎えようとしています。なお、資金証券システムについては段階的なリリース計画となっており、2007年3月のファーストリリース後も、さらに開発が続きます。

「3月以降、資金証券システムについては金融先物や債権先物などのシステムを継続して開発していきます。NexawebおよびExtended Struts for Nexawebによる開発手法・手順は今回でほぼ固まりましたので、次はさらに工数を削減して開発スピードを上げていくことができるでしょう」(倉橋氏)

資金証券システムおよび統合RBのリリースによるJIPの今後のビジネス展開について、大江氏はこう語ります。

「資金証券システムと統合RBは、既存ホストシステムのユーザーのシステム更改も合わせて、今後4年間で合計50行以上の導入を目標としています。いずれも市場は順調に伸びており、各金融機関様のリスク管理の強化に対応したシステムでもありますので、それだけ大きな需要が期待できると考えています」



日本電子計算株式会社
営業統括本部 東京本店 金融営業部部長
大江 康裕氏



日本電子計算株式会社
サービス統括本部 開発本部 金融開発部
アーキテクトマネージャー
森永善宏氏



日本電子計算株式会社
サービス統括本部 開発本部 金融開発部
資金証券プロジェクト
プロジェクトマネージャー
倉橋 和樹氏

※ 記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。
※ 記載内容は取材日現在のものであり、内容については、予告なく変更する場合があります。



日本ネクサウェブ株式会社

〒104-0061

東京都中央区銀座5丁目12-5 白鶴ビル3階

TEL:03-3541-5061 FAX:03-3541-6457

Mail:sales@nexaweb.co.jp

<http://www.nexaweb.co.jp>